

## 令和6年度第2回広島県公立大学法人評価委員会

- 1 開催日時：令和6年8月23日（金）10：00～11：30
- 2 開催場所：サテライトキャンパスひろしま 503 会議室
- 3 出席者：曾余田委員長、浅田委員、山川委員、中矢委員
- 4 議題：広島県公立大学法人の業務の実績に関する評価結果（案）について  
広島県公立大学法人第四期中期目標の策定について
- 5 担当部署：広島県環境県民局高等教育担当  
TEL (082) 513-2752（ダイヤルイン）

【質疑】広島県公立大学法人の業務の実績に関する評価結果（案）について（評価委員○、事務局●）

- 前回評価を保留としていた項目は39と80であるが、項目39については、支援が趣旨の項目であるため評価は「3」とし、項目80は外部資金の獲得を目標とした項目であるため「2」でよいと思う。
- 叡啓大学に関する「(3) 新たな教育モデルの構築」の教育プログラムについて、研究面のことをいきなり記載しており、違和感がある。
- 科研費のテーマと新たな教育モデルは関連しているのか。新たな教育モデルを発展させるテーマを大学として設定し、教員全体が協力して研究しているのか知りたい。叡啓大学では科研費はどのような分野で申請されているのか確認したい。
- 教育の大学であるため、教育の質を高めるため各教員が研究しており、その中で科研費申請も一つの手段として出てくる。
- 現行の中期目標・計画に叡啓大学の研究についての項目はないので、「(3) 新たな教育モデルの構築」に無理して記載する必要はないと思われる。
- 叡啓大学は教員にどのようにFDを行っているのか。
- 取組状況を確認のうえ、記載の仕方について検討したい。
- 教員を支えるFDの重要性について、叡啓大学の項目に記載する必要があるのではないかと。
- 県立広島大学の「(1) 教育の質の向上」のルーブリック評価について、導入することが目的とならないか危惧している。教学マネジメントの確立に向け、柔軟に対応する旨を記載すべき。
- 叡啓大学において、交換留学に関する協定を締結しているとあるが、決まった大学からしか留学生が来ないなどということはないか。何校との連携が活発に行われているのかなどの記載があれば、効果が見えてくるのではないかと。

【質疑】 広島県公立大学法人第四期中期目標の策定について

- 両大学における大学連携に関する目標について、「資源を最大限活用」という表現ではなく、「相互に活用」といった表現の方が適切ではないか。
- 叡啓大学の教育に関する目標のうち、卒業生や社会人を対象とした学び直しの機会の提供は、教育に関する目標として記載するのであれば、教育の質の向上につながる趣旨で記載した方が良いのではないか。
- 叡啓大学が育成したい人材に関する記載について、育成すべき人材に関する目標と教育に関する目標が対応するように記載した方がよいのではないか。
- 叡啓大学の育成すべき人材像について、大学の理念などを基に記載しているが、現在の案では簡略化して記載しているため、内容を補完することとしたい。
- 叡啓大学が育成を目指す人材像は、多様性を重視するといった新しい世界観を持っていると思うが、そのような表現になってないように感じる。
- 叡啓大学の「ソーシャルシステムデザイン」について、社会に理解されているのか。  
社会人が叡啓大学で学ぶ魅力が不明確に感じる。県はどのように法人を後押しするのか。運営費交付金に加え、年度ごとのプロジェクトなどを達成するための取組に対して支援していく思いはあるのか。
- 現在でも、プロジェクトに要する経費に対しては、標準運営費交付金とは別に、特定運営費交付金を措置しているところであり、今後も支援していく方針である。
- 県立広島大学の研究に関する目標の「ア」について、県内産業の振興等に資する研究を推進するとあるが、貢献するのは県内であっても、研究自体は国際的な視野を持って取り組むべきではないか。
- 研究テーマについては国際的なテーマも入ってくるので、追記する方向で法人と調整する。